

7月号

第482号

# いっしん

令和7年(2025年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895

Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師御教

習うより  
習わるゝ身に  
なれかしと  
心をこめて  
神に祈らな

立教166年／小倉教会布教140年／甘木親教会布教121年／加治木教会布教74年



霧島神宮斎田の御田植祭

写真：大重為映氏

加治木教会

## 天地金乃神御大祭

仕えられる

天地のみ恵み・み働きが生き生きと躍動し、若葉は萌え出で麦秋の季節を迎えた皐月、早場米づくりの農家はすでに田植えは終わり、季節や暦(こよみ)に合わせた田植えへと向かわんとする季節に、加治木教会では天地金乃神御大祭が仕えられます。

祭詞奏上では、天地の親神様の広大なお徳、計り知れないみ恵みを称え奉り、生神金光大神様をこの世にお差し向けになられた、尊いみ計らいやみ働きに、参拝者一同で御礼を申し上げさせていただきます。

ご教話は大口教会長 安武秀信先生で、天地の親神様の思召しに添う、すなわちご神慮に添う信心についてのお話を拝聴させていただきます。

加治木教会 天地金乃神御大祭… P1～3  
『私の頂く安武松太郎師』…P4～6

お知らせ…P7  
教会行事…P8

加治木教会

天地金乃神御大祭ご教話

講師

大口教会長

安武秀信先生



信心の三つの要点

「信心の基礎・基本」

「二つの人生」「ご神慮に添う」

「世は徳に乗って渡れ」

ということについてお話になられました。

\*

第一番目の「信心の基礎・基本」

とは、金魚は水から出すと生きられ

ない、金魚は水に生かされている。

人間は天地のお恵み、ご神慮の中に生かされて生きている。

お米も空気も天地のお恵み、茶碗一杯に約三千粒のお米、一粒のお米で人は三歩歩くことができる。空気を一日に四間(よんけん)立方を吸って生きていることができる。

そのように万物をお恵み下さる、天地の親神様のご恩の中に生かされている。

その神様をお願いするのなら、万物のご恩、すなわち天地の大恩を知りお礼を申す稽古をすること。

荻原須喜師の伝えの「今まで長う痛うてつらかったことと、今おかげを受けてありがたいことと、その二つを忘れなよう。その二つを忘れさせせにや、その方の病気は二度と起こらぬぞよう。」とのお内容。

安武松太郎師の、初めて天地の大恩の話を聞いて足元から鳥が立つ思いがするほど驚き、わずかの間に長年の悩みであった病気が全快したことを「信心とは始め忘れぬ心」とのよう、生涯忘れず、説いて行かれたその信心姿勢と同じ。

\*

第二番目の「二つの人生」「ご神慮に添う」は、自分の過去を振り返ると、大きなおかげを頂いたということが必ずある、反対におかげを頂けなかった人生もあったが、神様が良い方に導いて下さったというご神慮を忘れないよう信心の整理に心がけること。

神様が願われている生き方に目覚め、命と健康を神様の喜ばれることに使って行こうという生き方になることが大切。

\*

第三番目の、「世は徳に乗って渡れ」ということは、桂眞津子親先生も私も、親先祖の徳によって御用ができていますよなもの。

また、甘木の手続きのご神慮を頂かれた先生は「桂松平先生のお働きをお手伝いされる、安武松太郎先生のお働き」そのおかげで今日のご比礼があることを伝えられています。

手続きの徳、御取次の徳で、今日があることを忘れないことが大切。

\*

信心の基礎・基本は、高層ビルの

基礎・基本と同じように、設計・構造は眼に見えない。

二度と難儀をしないためには、常に、自分の正体を知り、出てきやすい油断や慢心や我がままや不足な心に気を付ける、眼に見えない心の稽古をしなければならぬ。

そうして、おかげを頂いて今日の自分があることを知り、神様が喜ばれるように、人生を使おうという心になって行く信心の稽古が大切。

◆◆◆◆◆

※ご教話は、スマホやパソコンで聴くことができるようにしています。録音した音声を写真ビデオにしたものです。



<https://youtu.be/LFIuDtwPC-g>



立教神伝・前講は、人吉教会長 安武光太郎先生でした



ご祭典(祭詞奏上)



少年少女会 直会



少年少女会 玉串奉奠

『私のいただく安武松太郎師』

(矢野政美著 昭和五十六年  
十二月発行)

5、恩師のご帰國

布教四十五年記念祭が終えられて、恩師は目立ってお弱りになられたようでした。

翌二十五年の元旦祭には、ついに祭主としてお立ち下さることが出来ず、ずっと病床にお就きになっておられました。婦人会の幹部の方が看護させていただくことを安らかにお受けになられ、全く無言でまさに神様のご境地にお進みになられたように感受させていただくことであります。



安武松太郎師

同年八月下旬、恩師は一時危篤状態にまで陥りましたが、月末頃には小康を得られました。

明けて昭和二十六年一月十九日、二十日にかけて、私は現親先生（二代文雄師）のお伴をして、前々から教主三代金光様から布教地について鹿児島県加治木町との御神命を頂いておりましたので、加治木に借家探しに参り、十九日の夜は栗野教会に泊めていただき、二十日に加治木であちこちと適当な借家を探し回りましたが、なかなかこれという家が見つかりませんでした。

そうしてありますところへ夕刻、栗野教会から親先生宛に、恩師が重態に陥られたとの電報がまいります。取るものも取りあえず夜行列車で帰らせていただきました。当日は寒い日で、一面の銀世界でした。その時も、危機を脱せられました。一日一日と、恩師とお別れする日が近づくような何とも言えない気持ちで過ごさせていたでいておりました。

昭和二十六年二月四日朝九時、親奥様、現親先生ご夫妻を始め親類、

教え子の諸師数名、修行生一同の見守る中で、天津祝詞奏上中に安らかに、御齡(みよわい)八十二歳をもって神上がりになられました。

実に、明治三十七年五月八日、御齡三十五歳をもちまして甘木の地にご布教下さり、赫々(せきせき)たるご教績をお建てになり、どれほど多くの人々が取次助けられてまいりましたことか。

私も母も、ご布教の年に父の病気で御神縁を頂きましてより四十七年、今日あることを御礼申上げてもつきせぬ思いが致します。

恩師の願いを、現親先生が確かに受け継がれ、お祈り下されてありますことは、真にもったいないことでもあります。

6、加治木布教について

恩師の百日祭もすみ、同年六月十七日に甘木の御広前を発たせていただいて、御神璽と恩師の御霊璽のお伴をしてまいりましたが、その夜は栗野教会に一泊させていただきました。

十八日加治木にまいりまして、今年で満三十年にならせていただきますが、いろいろな事に出会いますたびに、恩師と現恩師と頂きます親先生のお祈りの深さをしみじみと感じさせていただいております。

布教当初のある夜明けの夢に、恩師のお供をして杵築教会の柏田忠彦先生と私と参っておりますと、恩師が後を振り返られて「矢野さん、神様は天地の親神様でどんなおかげでも下さるが、要は受けものが大切ばい」と仰せられたお言葉が、今日まで耳底に残っております。

至りません私どもが、今日このようにお引きまわしいただいて、かつがつも御用にお使いただいておりますことは、ひとえに御先代恩師と現親先生の御取次の賜としみじみ感じさせていたたくのであります。

御先代恩師から現親先生に流れ伝わっております御神慮中心、御神慮中心の生き方を進めさせていただきますして「神も助かり人も立ち行く」御神願ご成就の御役に立たせていただくべく、生命の限りおかげを蒙らせていただきたいと祈らせていただ

いております。

### 『母の思い出』

(矢野政美著 昭和四十六年十二月初稿)

### 一、母の生い立ち

母(クラ)は、明治十五年に、福岡県朝倉郡三奈木村大字三奈木(現朝倉市三奈木町大字三奈木)に、父政本孫兵衛、母モモの長女として生まれました。政本家は代々黒田家(福岡黒田家の分家)に仕え、足軽をとめていました。

ちなみに続柄は図のとおりであります。

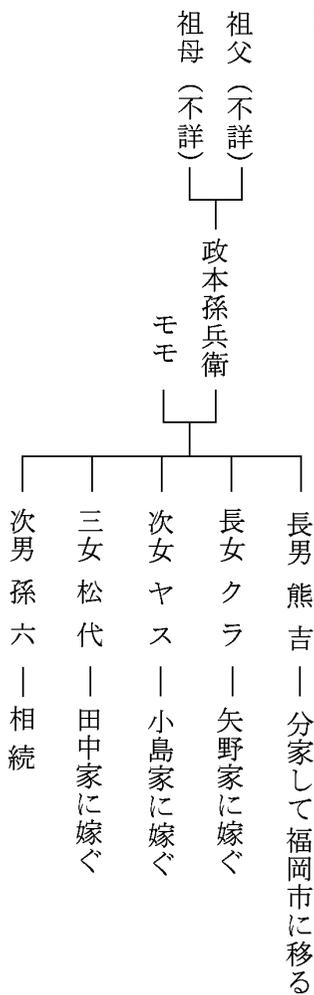


母の両親は五人の子女を抱え、わずかな扶持での家の暮らしは決して豊かであったとは思えません。今は、母の幼少の頃のこと

を知るべき術もありませんが、五人の兄弟の中でも、一番信仰心の深かったことは、母の一生の生活態度によつてうかがうことができます。

母は二十歳にして、隣村(約四キロメートル)立石村大字堤一七〇番地(現朝倉市大字堤)、矢野仁吉郎のもとに嫁ぎました。

### 政本家家系図



ちなみに、長男熊吉は近家より妻をめとり、のち福岡市に住居を持ちました。

次女ヤスは、福田村大字小田（現朝倉市小田）小島家に嫁し、のち福岡市吉塚に移り住みました。次男孫六は、実家にありて政本家を継ぎました。

## 二、結婚当初の生活状況

母の姑に当たる矢野フイは、朝倉郡三輪村（現朝倉郡筑前町）原地蔵に生まれ、長じて同村栗林家に嫁ぎました。栗林家は当時相当の資産家でありましたが、夫が若くして死去、失敗が打ち続き家は倒産したため、子女を伴って実家に帰り、その後縁あって、イソ、クマ、仁吉郎の三人の子を連れ子して、矢野幾右衛門のもとに嫁いだのです。

若き新夫婦は、いかにしても、家運を挽回せんものと励まし合いつつ、母は、生来の辛抱強さで、なりふりかまわず一生懸命に家業に精を出しました。

(つづく)

来年、令和八年は加治木教会布教七十五年のお年柄で、五月には記念大祭をお仕えさせていただきます。このことに致しております。その記念事業として『わたしのいたたく安武松太郎師』（矢野政美著）を加除訂正し、若い人たちにも読みやすい言葉づかいに改め、再版させていただくことを考え準備を進めております。

## 少年少女全国大会

### 「作品展」に、二月の例会で作った凧や、習字を出品しました。





七月六日(日) 午前十時半より

連合会 主催 勤労者交流センターにて

# 信 奉 者 集 会

講話 小林大典先生(勤務センター次長)  
 講題 「世話になるすべてに礼を言う心」

七月十七日(木祝) 午前十一時より

甘木親教会

# 祈 願 祭 参 拜

七月二十七日(日)

午前十一時より

加治木教会

# 祈 願 祭 奉 仕

※祭典後、ご教話、お直会。

**第78回 少年少女全国大会 参拝**

**8/9(土)~11(月)**  
8:00AM 8:00PM

旅費 小学生~15000円 ほど  
 中学生~19000円 ほど  
 大人~22000円 ほど  
 幼児~7000円 ほど

※宿泊 交通費 10日昼食、11日朝食のみ  
 費用込み、ほか自弁

持参品:着替え、帽子、洗面具、バジマとなるもの、  
 高Tシャツ(行着用)、水筒

交通機関:自家用車 or レンタカーにて

※自家用車になると旅費が少なくなります。



※詳細・お申し込み、金光教加治木教会まで。  
 TEL・FAX 0995-62-2995、LINE@hit

## 教会行事

7月

- 1 (火) ●報徳月例祭 10時半
- 10 (木) ●月例祭 10時半
- 14 (月) 連合会 企画会議(鹿児島) 青少年 教会にて
- 17 (木) ●甘木親教会 祈願祭
- 20 (日) 多良木教会 祈願祭 11時
- 21 (月祝) 清掃御用 10時
- 22 (火) ●月例祭・共励会 13時半
- 24 (木) 教師家庭婦人会(上荒田) 教会にて
- 26 (土) 前日準備御用
- 27 (日) 加治木教会 祈願祭 11時
- 31 (木) 清掃御用 10時

8月

- 1 (金) ●報徳月例祭 10時半
- 7 (木) 清掃御用 10時
- 8 (金) ●月例祭(生神金光) 併せて 10時半
- 9 (土) 少年少女全国大会 第一日
- 10 (日) 少年少女全国大会 第二日
- 11 (月) 少年少女全国大会 帰着
- 16 (土) 福山家霊祭
- 17 (日) 連夏のつどい(鹿児島) 教会
- 20 (水) 21(木)甘木婦人教師会
- 21 (木) 清掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭(天地堂) 共励会 13時半
- 24 (日) 星原家霊祭
- 31 (日) 清掃御用 10時

**チャレンジカード**

とりくんだひとで、七月十九日までに教会へもってきた人は、連合本部へ送ります。全国大会で掲示されます。

少年少女会の「チャレンジカード」がんばっていますか?



取り組んだ人みなに、後日、教会の少年少女会から、すてきなプレゼントもあります。

**夏のつどい** 今和7年 8月17日 10:30~14:00



場所 金光鹿児島教会 10:30 開会  
 内容 縦横絵付け体験(カップとお皿) 11:00 作業開始  
 協力:柳信一郎氏(福原焼陶芸家) 12:30 昼食  
 参加費 小学生・中学生 無料 13:10 自由研究・プチ工作  
 大人 500円 14:00 解散

持ってくるもの 参加申込み

- ・エプロン(絵付け、工作のできる服装)で
- ・タオル(手ふき用)
- ・昼食(お弁当)・水筒
- ・筆記具(自由研究記入用)

8月5日(火)までに、加治木教会 矢野聖へご連絡ください。  
 電話 FAX: 0995-62-2995  
 LINE @鹿児島地方教会連合会  
 メールアドレス: hittohe.konkaji@gmail.com